

第7次幸田町総合計画(案)に対する意見(パブリックコメント)

令和7年12月8日～令和8年1月9日実施

ページ	項目	意見	回答
P18	人口目標	SDGsの計画時は50,000人と設定し、この計画では43,000人に変更している。 これは机上で伸ばしており、人口の増加に対する新たな取組がなされなかったためこのような結果になったと推察します。 令和7年の広報こうたの人口がすでに41,891人(令和7年12月1日現在)に近い数値で出典された人口が41,899人であることから、将来人口は「41,000人」が妥当ではないか。	人口減少は避けられない状況ではありますが、総合計画に記載させていただいている、市街地、住宅、公共交通などのハード面の整備や子育て支援や町の魅力向上などのソフト面の施策による人口増を見込み43,000人とさせていただきます。
P19	合計特殊出生率が1.8%へ段階的に上昇する	これも机上で伸ばしており、上昇する新たな取組みが成されていない。 子どもを生む年齢の方の生活価値観が多様化していることもありこの数値は容易ではないことから、土地区画整理で一時的に増加しますが同じように上下を繰り返すこととなります。	ご指摘のとおり、容易ではありませんが、社会増だけでなく、自然増を見込める施策を強化し、目標人口である43,000人に向けて取り組んでいきます。
P22	三河湾リゾートや背後の観光拠点との連携を図ります	三ヶ根駅に停車する列車本数が少なく、名鉄西尾蒲郡線が存続状態になっていることから観光誘客はごく限られた人に限定されます。 核となるものを示して、ツアーコースをする手立てしか無いのではないか。	取組分野「観光振興」ではロケの誘致を始めとした観光資源のPRについての取組を記載させていただいており、近隣市町との連携を深めながら、観光誘客に取り組んでいきます。
P22	文化・スポーツ拠点としての魅力などを向上するため、さらなる施設機能の集積などを図ります	これは体育館を想定していると思われる。第5次総合計画では、野場の大日影を教育ゾーンと定め大学誘致をして来ましたが、まどかの郷を福祉ゾーンに変えて誘致しました。災害時の広域避難所は、新幹線西には南部地域には南部中学校しか無く広田川が氾濫したときは避難できないと思います。体育館を広域避難所と兼ねて整備し、グランドゴルフ場と併せて、緑住都市を町外アピールする方法はどうか。	博物館やスポーツ施設など、文化・スポーツの拠点として整備を想定しており、整備する際には、避難所に限らず、複数の機能を有するなど、誰もが有効に活用できるような施設整備についても検討します。

第7次幸田町総合計画(案)に対する意見(パブリックコメント)

令和7年12月8日～令和8年1月9日実施

ページ	項目	意見	回答
P28	JR 幸田駅および 幸田駅周辺の整備	遠望山の優れた景観と幸田駅周辺の景観条例を制定し、都市機能を果たす商業施設の集積を図るべきである。電線地中化に莫大な資本投資をし、区画整理事業で歩道を広げていることから資源の有効活用にすべきである。  最近の新聞紙上で、犬山城が城ブームで国内観光客が増え、門前商店街600店がコロナ感染症発症前のにぎわいをもたらし、経済活動が活発になり、商店街が活性化された記事が搭載されていました。	取組分野「商業振興」にも記載させていただいているとおり、中心市街地の衰退も課題となっているため、中小企業や個人事業主への支援、地域の特性に応じた商業の活性化に向けた仕組みづくりに努めます。
P58	公共交通の整備	えこたんバスは、もともと町内移動を目的としたコミュニティバスであり、市街地との連携や鉄道との結節点としての機能が弱く、広域的な移動手段としては不十分です。この性質を踏まえると、全世代向けの広域移動を担わせるよりも、高齢者や学生向けの交通弱者向けの「チョイソコこうた」などのオンデマンド交通に重点化するほうが、より目的に適したサービス提供になると考えます。	令和5年度に策定した幸田町地域公共交通計画に基づき、町内の公共交通の再編を進めています。  総合計画としては、詳細は記載していませんが、えこたんバスのルート変更や、チョイソコこうたの運行エリアに拡大をすることで、より効率的で利便性の高い交通体系を目指します。
P58	公共交通の整備	広域移動については、特に学生が交通結節点不在の影響を受け、通学手段や進路選択に支障が生じかねない状況です。少なくとも通学時間帯だけでも、名鉄路線(岡崎市や西尾市)への結節点を町外に設置するなどの対応を検討していただきたいところです(町内に名鉄駅がないため、運行エリアが町外となる課題は承知していますが、これは当初から想定されていた問題であり、解決策の検討が必要です)。各市町村との相互連携に向けての協議なども検討してみてもどうか？	令和5年度に策定した幸田町地域公共交通計画に基づき、町内の公共交通の再編を進めています。  総合計画としては、詳細は記載していませんが、えこたんバスの交通結節点への強化や、チョイソコこうたの町外への接続を含めて検討しています。

第7次幸田町総合計画(案)に対する意見(パブリックコメント)

令和7年12月8日～令和8年1月9日実施

ページ	項目	意見	回答
P58	公共交通の整備	<p>幸田駅周辺のエリア開発を進めるにあたり、駅に「人が集まる仕組み」をつくることは不可欠です。たとえば、以下のような町が主体となって運営するスペースの設置は有効ではないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅構内への図書館機能や町民サービスの出張所</li> <li>・学生が自由に利用できる学習・交流スペース(コミュニティルーム)</li> </ul> <p>これらの取り組みにより、駅を中心とした回遊性が高まり、地域の活性化にもつながると考えます。</p>	<p>取組分野「観光振興」に観光における周遊性や公共交通を含めた観光戦略について記載させていただいており、駅周辺に限らず、町全体の魅力向上につなげていきます。</p>
P58	公共交通の整備	<p>公共交通の利用を促すためには、駅まで安全にアクセスできる道路環境の整備が不可欠です。</p> <p>歩行者や自転車の動線が十分に確保されていない現状があり、駅までのアクセス性が利用拡大を妨げる要因となっています。</p> <p>特に以下の点は早急な改善を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道の連続性の確保</li> <li>・自転車レーンの整備</li> </ul> <p>これらの整備は、町が推進する「公共交通を核としたまちづくり」と一体で進めるべきです。</p>	<p>「まちづくりの重点方針(5)みんなが集うまちの仕組みを整える」に駅を始めとした拠点をつなぐ道路網や公共交通といったネットワークの整備について記載させていただいています。</p> <p>取組分野「道路の整備」には幹線道路や生活道路の整備について、取組分野「交通安全の強化」には多様化するモビリティに対する通行帯や安全対策の整備について記載させていただいており、駅へのアクセス性の向上につなげていきます。</p>

第7次幸田町総合計画(案)に対する意見(パブリックコメント)

令和7年12月8日～令和8年1月9日実施

ページ	項目	意見	回答
なし	町内交通網の関係が欠落している	<p>現在町内交通網はえこたんバス及びチョイソコこうたで運行していますが、愛知県ではアジア・パラリンピックに向けてレベル4の取組みで実証実験を新年度から行うことが発表されています。また刈谷市は産官学でSDGs自動運転社会を見据えた取組をしていることから、タクシー・バスの運転者不足もあり、自動運転社会の取組を検討すべき社会にきているのではないか。</p> <p>それを見据えて幸田駅周辺の整備をしていくのが必要ではないか。</p>	<p>交通関係については取組分野「公共交通の整備」に記載させていただいています。町内の公共交通の再構築や鉄道駅や駅周辺の整備、新しい交通サービスの検討について進めていきます。</p>